



おはなしをする花

たなかいっけい

おはなしをする花

「けさもみんな元気かな」

ミミのおばあさんは、にわの花たちに声をかけながら、耳をちかづけました。

そうして

「うん、うん」と、うなづいて

「そうかい、そうかい、それはよかった、きょうはあつくなりそうだから、たっぷり、お水をあげようね」

おばあさんは、花たちと、おはなししてでもいるかのように、おしゃべりしながら、古いブリキのジョウロで水をやっていました。

・・・おばあちゃんは、花とおはなしができるのかしら・・・ミミは、おばあさんの家の、ろうかのかどから、にわにいるおばあさんを見て、そう思いました。

水やりを終えた、おばあさんが行ってしまうと、ミミはにわへおりていって、花たちを見まわしました。どの花も水をいっぱいかけてもらって、あさひをあげてキラキラひかっています。

「お水をかけてもらって、きもちいいの」

ミミは花たちに話しかけました。でも花たちはなにも、こたえてくれません。

「おばあちゃんの、ひとりごとだったのかなあ」

いっしゅん、花たちがキラキラッとひかったように見えました。

ミミは、にわのすみからすみまで、花たちにあいさつをしようと、じゅんばんに、こえをかけはじめました。

「おはよう、おはよう、おはよう」

ミミにあいさつされた花たちは、それぞれにキラッとかがやくようなきがしました。

「ミミ、ごはんですよ」

家のなかから、おかあさんの声がしました。

「はい、いまいく」

ミミは、おおきな声でへんじをすると、花たちに

「それじゃあ、またあとでくるわね」

と、いって、ろうかへあがろうとしたときでした。

「ミミちゃん、はやくきてね」

うしろから、ちいさな声がきこえました。

「えっ、」

ミミはふりかえりましたが、だれもいません

「だーれ」ミミが言うと

「わたしたちよ」声は花たちのなかから、きこえてきました。

「わあー、おはなしできるんだ」

ミミのかおは、うれしそうに、かがやきました。

「すぐ、くるから、まってね」

ミミはそういと、ろうかをあがって家のおくへはしっていきました。

あさの陽をあびて、花たちは、うれしそうにキラキラとひかっていた。

おわり